

令和6年度中野市少年育成センター運営協議会会議録

日 時 令和6年5月27(月) 午後4時から午後5時まで

会 場 中野市役所会議室 42

出席者 (委員) 11 名

高山康代(会長)、宮澤小百合、池田敦、唐木敏行、宮澤博之、芋川利幸、
畔上照雄、片所年子、柴本茂、金井洋、高野郁夫

(事務局) 4 名

小林センター長(子ども部長)、戸田子育て課長、田中青少年未来係長、神田
主事

次 第

1 開 会

子育て課長：本日の出席の委員ですが、15名中11名ということで、中野市少年育成センター運営協議会条例第10条第3項に基づき、過半数の委員の出席がありますので、本会議は成立していただきますことをご報告いたします。

2 あいさつ

(1) 小林センター長

(2) 高山会長

3 自己紹介

4 報告事項

令和5年度中野市少年育成委員会事業報告について

- ・資料に基づき説明(青少年未来係長)
- ・意見・質問特になし。

5 協議事項

令和6年度中野市少年育成委員会事業計画案について

- ・資料に基づき説明(青少年未来係長)
- ・質疑・応答

(片所委員)

この会議の役割は何か。委員として活動することはあるか。

就労支援継続B型事業所を運営しているが、児童発達の支援が必要な児童に関する
ことも会の審議事項になるのか。

(子育て課長)

先ほど説明申し上げたとおり、主に少年育成センターを構成する少年育成委員会の
運営について審議する会議であります。運営協議会委員の皆様には、少年育成に関
し、多方面から運営のための意見をいただくこととしています。なお、会議のほか
に、会として活動することは特にありません。

- ・活動計画案について承認

6 情報交換会

子育て課長：委員それぞれのお立場の中で、昨年度、活動されてきたこと、今年度の
実施計画などございましたら、情報の提供をお願いします。

池田委員：令和5年10月に将来世代応援会議を行った。その際にヤングケアラーに
関する取組紹介を中野市子ども相談室の職員の皆様に発表をいただいた。意見交換
会も行い、フードドライブや子ども食堂などのこともテーマとなった。薬物対策強
調月間の取り組みも行う予定である。また、少年の主張大会の地区選考会を8月に
実施し、中野市の南宮中学校の生徒が優秀賞を受賞した。引き続き事業への協力を
お願いしたい。

唐木委員：現在の中学校の状況としては、荒れた生徒は、少ない傾向にある。全体の印象では精神的なところで、心に病みを抱える生徒が増えている傾向にある。学校としても、不登校生徒の日中の動きがなかなか見えてこないのも、地域の皆さんの情報があると助かる。

片所委員：主任児童委員部会では、学校に出向いて見守り活動を行っている。また、高社小中学校の学校運営員会に参加しながら育成を見守っている。昔の遊びやよもぎ餅づくりなどを行っているところである。引き続き、学校との連携で子どもの育成にかかわっていくこととしたい。

金井委員：一年間少年育成委員として、活動し、信州中野駅南口から西友、市立図書館周辺と巡回活動したが、帰宅時間等に青少年の姿を見かけるケースが少ないという所感であった。スマホやSNSの普及に伴い、家で過ごすケースが多いのかと思う。巡回補導活動のルートの見直しなどを行いながら、活動を一年間行った。

高野委員：平野地区の補導活動は、月末の夕方の帰宅時刻に合わせて、中野平中学校に集合し、学校とコンビニの2班に分かれ巡回補導を行っている。教員にも入ってもらっており、コンビニで生徒に会うとあいさつしてくる生徒もいる。補導の概念について説明を受けたが、地域の活動にあわせて巡回補導を行っていくことでよいと研修してきた。また、補導ということばを使わず、青パト活動という言葉を使っている。

柴本委員：保護司はどちらかというと補導後、または、事件を起こしてしまい保護観察処分となった青少年とかかわりを持っている。学校訪問を通じて、育成に携わらせていただきたい。

畔上委員：県少年警察ボランティア協会は、非行防止のため、街頭パトロールや風俗営業取締指導などの活動を行っている。また、イベントでの啓発活動のほか、山ノ内町においては、小学生とそばを作って、関わりを持っている。こうした取り組みを実施しながら、引き続き、青少年の健全な育成に関与していきたい。

芋川委員：PTAは、高校生の見守りとして、家庭でのできごとを学校と共有していきましようとしている。チャットやSNSの利用が心配な面も多々ある。また、全国的には押し活を行うため、多額の金額を必要とし、トラブルに巻き込まれるといった事案も発生していて、心配な面もある。コミュニケーションが不足し、孤立化する生徒というのも存在してきているという心配もある。

宮澤（博）委員：公民館では、4つ公民館長として、南宮中学校の信州型コミュニティスクール運営委員として、中学校の生徒との関わりを持たせていただき、授業を見させていただきながら、意見を申し上げている。今年度も引き続き、中学校の生徒の学びに携われればと考えている。

宮澤（小）委員：現在の中野警察署管内の少年非行の件数は減少傾向にある。青少年健全育成の活動では、子どもの防犯意識の向上や健全育成を目的に、わが家のセーフティーリーダーを委嘱する取り組みを行い、自分ができる意識高揚策として、実施している。また、警察署では、深夜補導が少ない地域であるととらえている。スマホの利用に関するトラブルの相談などもある。その中で裸の写真を送信したことによりトラブルになったという件での相談もある。SNSで知り合った人のところに保護者が認知しながら、宿泊を伴い会うなどといったケースもある。また家庭内で、ネットやゲームの使用の仕方に差異が生じトラブルとなり青少年が暴力を振るうという案件などもある。

高山会長：福祉事務所では、中野市更生保護女性会が1月末をもって解散したことを報告します。私自身も青少年を通勤経路の中で行き会うケースが減っていると感じている。青少年の健全な育成が今後も図られていくとよいと思う。

○情報交換に関する質疑・応答・意見

片所委員：スマートフォンを自身の孫は、子が持たせないという方針だったので、高校生に進学するまで所持していなかったが、小中学生のスマホの所持率はどのくらいか、知りたい。

高野委員：先般の県の補導委員会の研修で示されたが、県下のスマホの所持状況については、小学3年生 17.8%、4年生 21.0%、5年生 25.1%、6年生 30.3%、中学校1年生 46.4%、2年生 57.2%、3年生 65.3%である。全県下の状況ということで、中野市に当てはまるかどうかはわからないが情報提供とさせていただきたい。

芋川委員：所持を一律に規制すると反発する子どもが多いと思う。高校生のいる親としては、所持はあたり前の状況だと思うので、大人がきちんと学習し、子どもに正しい使い方を教え続けることをしなければならないと考えている。

片所委員：スマートフォンに関するトラブルは障害者支援の事業所でも多々あり、中には弁護士が相談に乗っているケースもあり、トラブル回避は難しい状況だと感じている。

池田委員：コンビニやカラオケ、ゲームセンターなどの遊技場に深夜帯に集団で集まるといった行為は、見受けられるのか。また、タバコを吸うといった行為はほとんど見かけないがどうか。

宮澤(小)委員：23時以降に警察が行う深夜補導は件数がほとんどない状況である。遊戯場等が郊外にある地域であることも影響しているではと考えている。

7 閉 会

子育て課長：そのほかいかがですか。それでは、その他、全体を通して委員の皆様から何かご意見ご質問等はございますでしょうか。

なければ、中野市少年育成センター運営協議会を閉会とさせていただきます。ありがとうございました。